

江戸時代、式亭三馬は代表作『浮世風呂』（1808年）の中で、銭湯の教育機能を見事に描き出し、さらに、  
「すべて銭湯に五常の道あり」と言っています。

五常の道とは、「人として常に守るべき五つの道徳」のことであり、それは「仁・義・礼・智・信」を指すとしています。

「仁」とは、思いやり

「義」とは、利害を捨て公共のために尽くす（約束を守る）

「礼」とは、心の表現・ビタミン

「智」とは、生活のあらゆる面に好奇心をもち考える

「信」とは、安心の源泉

先人の師に学ぶことは数多くあり、有り難いことです。

五常の道を「不易」ととらえながら、流行にのっていきたいと考えています。